

1. 活動記録

- 第1回（5／30（水））
 - ・意見交換会の趣旨等説明
 - ・30年度の実施テーマ等について意見交換を実施
- 第2回（8／28（火））
 - ・今年度の方向性
 - ・「新しい東北」官民連携推進協議会 福島ブロックにおける連携型交流会の取組内容等について意見交換を実施
- 第3回（1／30（水））
 - ・ふくしまキャリア探求ゼミの実施状況報告
 - ・来年度の意見交換会等について意見交換を実施

2. ふくしまキャリア探求ゼミ（12/2）の実施概要

福島県にU・Iターンをし、先駆的なチャレンジを行っている6名のゲストと参加者の交流を通して、参加者が県内での活動のイメージをもってもらうことを目的に実施。

●ゲスト

- ・高野哲也 氏（株式会社道の駅ひらた 駅長）【50代】【Iターン】【小売業】
- ・榊裕美 氏（NPO法人ワンダーグラウンド）【20代】【Iターン】【漁業】
- ・進士徹 氏（NPO法人あぶくまエヌエスネット 理事長）【60代】【Iターン】【自然体験】
- ・西本浩幸 氏（株式会社デザイニウム 取締役／ディレクター）【30代】【Iターン】【IT】
- ・古崎泰介 氏（田村夏井新聞店 代表）【30代】【Iターン】【まちづくり】
- ・古山浩司 氏（古山果樹園5代目）【40代】【Uターン】【農業】

●参加者数：31名



3. ふくしまキャリア探求ゼミの総括

○ 本イベントは、移住または事業承継で新たなチャレンジをしながらビジネスモデルおよびを確立しているロールモデルとなるゲストと、福島県内での就職やチャレンジを考えている参加者同士の交流を通して、福島県での働き方やチャレンジの仕方をイメージすることで、県内でのキャリア意識を向上させるために実施した。

○ 参加者からは以下の声が寄せられ、ロールモデルとしてのイメージを持たせることができた。

参加者の声（抜粋）

「自分のやりたいことをして生活しているという話を聞けて、自分もがんばろうという気持ちになりました!」

「行動のすることの大切さ、色んなつながりが、自分の最終目標につながるということを学びました。自分の夢に向かって頑張ります。」

「失敗を恐れずに挑戦し続ける姿が大変参考になりました」

○ 参加者は高校生、大学生、会社員や創業したばかりの起業家など幅広い年齢層の参加があった。

○ 当初予定していた地域おこし協力隊や復興支援員からの参加はなく、こうした人材へのアプローチについて課題として残った

4. 検討事項

- 地場産業に必要な担い手とは
 - ・ 担い手像のイメージ：登壇者候補のリストから描くことができる担い手像
 - － 産業、地域、年代、地元・Uターン等の分類軸の整理
 - － 登壇者の講演内容や参加者の感想などから描けるイメージはあるか
- 担い手を育成していくために必要な支援体制
 - ・ 次世代のロールモデルの示し方
 - － 今回のような場を継続的に県内で広めていく or 別な手段による示し方
 - － 示す相手・ターゲット（高校生、大学生、就活生、地域おこし協力隊 etc.）
 - ・ その他の支援体制について
 - － 既存の支援活動との連携および情報交換など
- 次年度以降の活動のテーマ
 - ・ 今年度のようなロールモデル提示のキャリアイベント
 - ・ 地場産業の担い手増をテーマとした取り組みの拡大
 - ・ その他、別テーマ